

図工のみかた



図工の先生そのまわり
MIKATA NO MIKATA

今号の図工のみかた、
山田先生の思いを実現する活動を
教えてもらいました。



山田先生(左)と小橋先生(右)

編集部(以下、編) 山田先生って本当にいろいろな活動されてますよね。
山田芳明先生(以下、山) ぼくっていうか、西村くん(東京学芸大学の西村徳行先生)がね(笑)。「図工ユニオン※」だって、「刺激のある研究会しませんか」って言い始めたの、彼だし。
編 (笑)。刺激のある研究会って？
山 授業をライブでつくるんです。午前中に一つのお題を出して、どんな題材にしたらいかがを研究会に来た人みんなが提案し合って、いちばん面白そうなものをみんなで選ぶ。午後から子どもたちがやってくるから、考えた人にやってもらう。そういうスタイル。
編 そのスピード感、面白いですね。
山 参加する人もみんな、授業をつくる側になっちゃう。お金払ってるのに(笑)。研究会っていうと普通は発表する側と見る側になるでしょ。でも、図工ユニオンは「授業をつくって、授業を振り返ることをみんなでやりましょう」という研究会。授業づくりの楽しさをもう一度見直すために立ち上げたんです。
編 「図工のおきぐすり」もそういうスタンスですか。
山 そっちはね、「図工の授業って、こんな面白いことやれる」みたいなことを全国の先生や子どもたちに広めてまわろうって感じです。これも西村さんと「研修とかで声をかけてくれるところだけじゃなくて、呼ばれなくてもどんどん出かけていって研究会しちゃう」って盛り上がり、ネーミングを考えたときに、いわゆる「富山のおきぐすり」の精神でいこうってなって。お店をかまえて客を呼ぶんじゃなくて、家庭を一軒一軒まわって「薬を置いてください」って。そういう気持ちで、ぼくらは図工を全国に置いてまわろうってね。
編 ステキ……。
山 すごいステキでしょ(笑)。でも、実はぼくにとっては、ただ単に子どもと

いっしょに活動したいだけなんですけどね。ぼくが今年の中でいちばん楽しみにしてるのが、「図工のおきぐすり」の中の子ども向けのワークショップかもしれない。こんなことしたら子どもはどんなふう思うんやろとか、こんな願ってかくんやろとか、そんなこと考えるのがほんと楽しい。
編 授業をしている先生しか見たことがないのですが、題材を考えるのは大変そうだって勝手に思ってたけど、授業前にそんな幸せな楽しい時間があったんですね。
山 今年3月に熊本県の天草で子ども向けのワークショップをしたとき、会場に下見に行ったら、東、南、西と3面が窓の採光のいい部屋でね、それで、窓にカラーセロハンのようなものを貼ったりするワークショップをしよう。ただ、晴れたらいいけど、天気悪かったら最悪やなって思ってた。でも、ほら、ぼく、もってるやん。
(一同爆笑)
山 当日、カンカン照りで。それで急ぎょ、窓に水性マーカーで絵をかくことにしたんです。ちゃんと事前に窓にかいても消せること調べてたし。窓の下にも養生シート貼っていろいろかけるようにしてあってね、そこに子どもたちが楽しく絵をかくて、活動の途中で子どもらに「窓にもかいてみたら」って言ったら、子どもみんな「ダメ」って言うんですよ。真面目な子たちやから。でも、ぼくが窓にマーカーでバツかいて、サッと消して見せたら、子どもたちも恐る恐るかき始めてね。いつもはやったらアカンことをきょうはやってみようとか、そういうのって子どもにとってもスリリングでしょ？ 図工やから許されるというんですかね。次は何おもしろいことしようかな……。

※「図工ユニオン」は2018年7月でひとまず最終会を迎えた。



上記およびp.04-05の活動写真は、図工のおきぐすりin男鹿(平成30年8月18日) 小橋川啓先生(沖縄県立島尻特別支援学校)のワークショップの様子

学習指導要領

「技能」ってなんだ？



自分なりに思いを実現する(p.07)

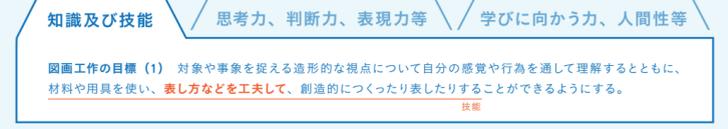


表し方などを工夫する

今号のキーワードは、「技能」。言われたことを言われた通りするだけでは、自分の思いに合わせて自分らしくつくる力は身に付きません。子どもたちは、「こうしたい!」という思いを原動力にして、試しながら、失敗しながら、思いを形にしていきます。そのように思いを実現する過程で、自分の力で獲得した経験が、様々な場面で活用できる「技能」となるのではないのでしょうか。

思いを形にする過程で身に付くもの、それが「技能」なのです。

学習指導要領 資質・能力の三つの柱



※造形的な見方・考え方 感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

(小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編より)

表紙『あわだらけ』
いろいろな色の泡を体全体で味わいながら、思い付いたことを試すワークショップ。布を付けたペットボトルを、シャボン液入り絵の具につけて、息を吹き込み、泡をつくる。「やってみよう!」という思いや「できた!」という喜びが、技能を育む原動力になる。
図工のおきぐすりin男鹿(平成30年8月18日)
クリエイティブディレクター：池田晶紀(ゆかい)
アートディレクター：畑ユリエ
表紙写真：川瀬一絵(ゆかい)
フォトグラファー：池田晶紀、川瀬一絵、池ノ谷侑花(ゆかい)
イラストレーション：やまねりょうこ(ゆかい)

図工のみかた 07号
日文教育資料[図画工作]
平成30年(2018年)9月30日発行
編集・発行人 佐々木秀樹
発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261
本書の無断転載・複製を禁じます。
CD33418

日本文教出版 株式会社
http://www.nichibun-g.co.jp/
大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171
東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618
九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938
東海支社 〒461-0004 名古屋市長区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261
北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

INTERVIEW
山田芳明 (鳴門教育大学教授)
学習指導要領「技能ってなんだ？」

本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日文の実践事例、教科情報
詳しくはWebへ!

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版



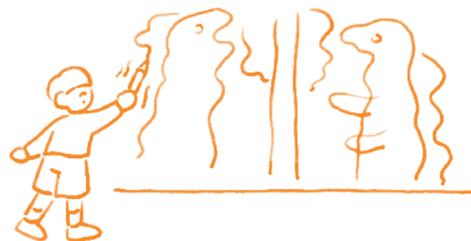
今号のキーワードは、「技能」。

子どもの姿と
図工の見方について、
図工の味方、
山田芳明先生に
聞きました。

語り手

山田芳明

(鳴門教育大学教授)



山田芳明先生(以下、山) 子どもってさ、落書き楽し

そうにかくやん? 『図工のおきくすり』で壁に絵をかくワーク

ショップをしたときにね、ある男の子が自分の背丈と同じくらいの大きな

怪獣をかいたわけ。スルスルってよどみなく、体全身を使いながら。それが、

すごく楽しそうだね。本来、絵をかくってそれくらい奔放でいいのに、授業になると、子

どもが「下書きしていいですか」とか聞いてきたり、間違わへんようにちょっとずつかいたり

する。あれって、授業でかく絵が本来の奔放さから離れてるってことじゃないか、本気で考えな

アカンなあって最近すごく思うんですよ。

編集部(以下、編) のびのびかいている子どもからは、「こうしたい!」という気持ちが伝わってきますよね。

山 そう。だって、かきたいことを、かきたいように、かいてるからね。ゼミの学生がね、小学校2年生の

ときにかいた絵が嫌いでもたまたまなかったって言うんですよ。「なんで?」って聞いたら、先生にかき方を事

細かく指示されて、その通りにかいたら普段の自分の絵じゃなくて、「気持ち悪い絵!」って思ったって。

自分の思いを自分らしく表すのが図工でしょ。学習指導要領解説でも「自分の思い」って言葉がたくさん

出てきてるし。それなのに、その自分が嫌やと思う絵をかくということは不幸やとぼくは思うんです。

編 「こうかましよう」と先に言われてしまったら、「こうしたい!」という思いは生まれにくいでもんね。

山 そうそう、「かきたい」があるからこそ、かき方を工夫しようとする。それが知識や技能の獲得に

つながりますよね。例えば、キャラクターをかきたい、みたいなどころから、意外とみんな始まっ

てるんちゃうかなとも思うんですよ。ぼくも子どもの頃はマジンガーZがかきたくて、練習して、

直立ポーズをかけるようになって。そこから、あんなポーズもこんなポーズもかきたい

って思いが自分の中に生まれたら、どんどん試行錯誤するわけだね。やっぱりそこが

大切。だから、子どもがキャラクターかいてたら、頭ごなしに「アカン!」っ

て言うんじゃなくて、「じゃあ、こんなポーズしてるの、かける?」な

んで導き方もあるんちゃうかな。

注:最後のページの「図工のみかたのみかた」参照



始まる

という思いから

『こうしたい!』



『自分だったら!』が

図工スピリッツ

思いを形にする力、
それが技能

山 ある研究会でね、木材で

妖精をつくる題材で、妖精に手を付けようと

していた子がいたんです。その子が使ったのが、配線

用のステーブル。木と木をつなぐんじゃなくて、胴体にステー

ブルを四角に打ち込んで、そこに手をはめようとした。でも、全部

打ち込んでからはめてみたらスカスカで。打ち込んだステーブルを全部

外して、また打ち直して。今度はグッと手がはまって、最後はその子がすごく

満足する、いい妖精ができたんです。

編 面白いですね! そのとき働いていたのは、技能? 発想?

山 もちろん両方。技能って「工夫」、つまり自分なりに思いを実現する力なんです。

「妖精に手を付けたくて、こんなふうにつけたんだね」って子どもの発想が見える

ということは、技能を働かせて発想を形にしたということ。技能と思考力が結び

ついたから、形になったんです。

編 形になっていなければ、どんなことを発想したのか、頭の中は分からない

でもんね。

山 そう、でも実現しようと試みている姿は見えますよね。

編 「いいこと考えた!」んだけど、うまくできない、という?

山 そう。そこで、思いを表現として結実させていく

力、技能が求められるんじゃないかな。

編 「いいこと考えたんだけど、うまくでき

ない」ときに、先生はどうするんですか。

山 その子の過去の経験を掘り起すような言葉がけをするとかし

てアドバイスするのが先生。その子自身の力で思いを実現できるように

サポートすることで、その子の経験として蓄積されることを大事にしたいんで

す。さっきの妖精の話でも、ステーブルを全部打ち直して、時間もかかるし、

言ったら失敗かもしれない。でもね、この時間があつたから、この子は挟まり具合の加

減とか、少し狭いところへグッと差し込む感覚を経験できた。この経験は別の形できつと

生きてくると思うねんなあ。

編 試しながら「自分の力で実現した」経験は、どこかで生きてくる?

山 そう。人から「この通りにやりなさい」って言われて、そのときはできたとしても、その場だ

けの経験。違う場面で生かせる技能にするには、自分で考えて、試してって経験が必要だと思

います。思考の伴わない技能はない。道具だって、「基本的な使い方」はあるけど、「どんな

場面でも通用する使い方」はないでしょ。例えば鉛筆を、いつもとがらせて、同じ持ち方で

使う必要はなくて、かきたいものに合わせてとがらせ方も持ち方も変えますよね。

編 確かに、そのときの状況や、自分の思いに合う方法は様々ですよ。正しい「妖精

の手の付け方」なんてないですし。

山 それに、先生が先回りして「次はこうしてね、はい、できましたか?」って言って

失敗を回避していたら、本当ならもっと豊かに経験できることもできなく

なるんちゃうかな。失敗してもいいし、作り直してもいい。それ

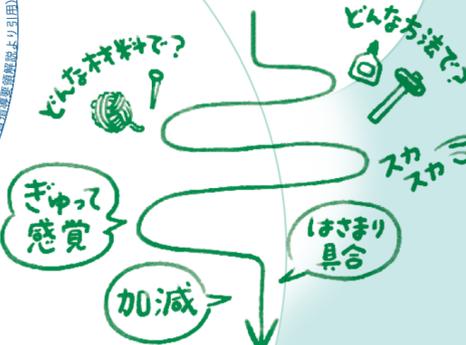
くらいの大きさをもって子どもたちを受け止めら

れればいなくて思うのよね。

手をつけたい!



どうやって?



できた!



豊かな経験が

技能になる

山 図工って、人がやっていること

をすごいなって思える、同時に「自分やったらこ

うするな」って考える、そういう子どもを育てている時間や

とあってね。前に、自分たちのすみかをつくるって題材を見たど

き、ある子が入口にタッチセンサーを付けたら、他の子たちもまねるんや

けど、「うちはピンポン(呼び鈴)や」「うちは暗証番号や」ってそれぞれこだわ

り出して、面白かったなあ。子どもって、部分にすごいこだわって、その部分の

積み重ねの上に全体ができていく。そやから、全体の進行も大事やけど、部分のが

んばりを先生には見てほしいと思います。

編 「自分だったら」って考えるのは、まさに創造していることですね。

山 そう。常識的な手続きがダメなときに、別の角度から新しいやり方を思いつくという

か。「これどうするの?」って場面でも、「それムリ」って言うんじゃなくて、「こうしたら、

こんな素敵なことが起こりそうや」って考えようとする姿勢がね、図工が大切に育て

ていることちゃうかなって思うんです。

編 山田先生がそうですね。だれかが「これどうしよう?」って言ってたら、「な

になに? 俺やったらな……」って面白いこと考えようとするでしょ(笑)。

山 だって、先生がそうじゃなくっちゃ、子どもがそういう姿勢にな

らへんやん(笑)。

編 その姿勢が、先生の取り組む活動につなが

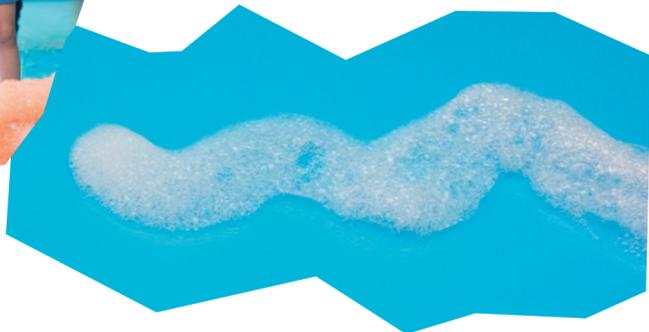
るわけですね。

やまだ・よしあき 1965年、大阪府生まれ。大阪教育大学附属平野小学校を経て、現在鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授。国立教育政策研究所 学習指導要領実施状況調査結果分析委員、「図工のおきくすりプロジェクト」共同代表、「全国図工授業づくりユニオン」西地区代表を務めるなど、日本文教出版小学校図画工作教科書の著者の一人として美術教育の発展に努める。

注:最後のページの「図工のみかたのみかた」参照



『あわだらけ』



のぼす、曲げる、立てる、重ねる。



泡で、したいこと、できること。



試しながら、自分なりに、形にしていく。



思いを形にする。

「こうしたい」を形にする。
試して、失敗して、やり直して、
自分の思いを、自分なりに。

「できた！」のその前には、
思いを形にするための
「ためす」があります。